

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2019

課題番号：26285175

研究課題名(和文)21世紀型コンピテンシー育成のためのカリキュラムと評価の開発

研究課題名(英文)Developing Curriculum and Assessment to Foster 21st Century Competencies

研究代表者

矢野 智司 (Yano, Satoji)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：60158037

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、21世紀型コンピテンシーを育成するためのカリキュラム、評価方法(パフォーマンス課題やポートフォリオ評価法など)や評価基準(ルーブリック)を開発することを目的とした。国内外において刊行されている各種の文献調査を行い、理論的な検討を進めた。また、研究協力校との連携により、カリキュラムや評価方法・評価基準に関する共同研究開発を進めた。それらの成果をE.FORUMの研修において発信するとともに、『変容する子どもの関係』『歓待と戦争の教育学』『災害と厄災の記憶を伝える』『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』などの著書や報告書、論文にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化と雇用の流動化が進み、環境問題など多くの解決困難な課題を抱える現代社会においては、問題解決能力、創造する力、コミュニケーション力、協働する力、自律的な学習力などの「資質・能力」(21世紀型コンピテンシー)を育むことが求められている。本研究においては、そのような21世紀型コンピテンシーを育成するためのカリキュラムや評価方法・評価基準の開発に取り組んだ。本研究の成果を書籍等で発信するのみならず、学校現場との共同研究開発に取り組んだり、教員研修を提供したりすることによって、現代の教育学研究の進展に資するだけでなく、学校現場における教育実践の改善に直接的に役立つものとなった。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to develop curricula, assessment methods (e.g., performance tasks and portfolio assessments), and assessment criteria (rubrics) to foster 21st century competencies. We conducted surveys of literature published in Japan and other countries and performed theoretical evaluations. We also conducted joint research and development of curricula, assessment methods, and assessment criteria in cooperating schools. The outcomes have been broadcast in E.FORUM training, as well as summarized in books (in Japanese), such as "Children's Changing Relationships", "The Pedagogy of Warm Hospitality and War", "Transmitting Memories of Disasters", "Performance Assessment to Achieve 'Deep Learning' in Subjects", etc., and in reports and papers.

研究分野：教育

キーワード：教育評価 カリキュラム スタンダード コンピテンシー パフォーマンス評価 パフォーマンス課題
ルーブリック ポートフォリオ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

グローバル化と雇用の流動化が進み、環境問題など多くの解決困難な課題を抱える現代社会において、学校には、児童・生徒に問題解決能力、創造する力、コミュニケーション力、協働する力、自律的な学習力などの資質・能力を育むことが求められている。そのような新しいタイプの資質・能力について、諸外国では、「キー・コンピテンシー」、「21世紀型スキル」などの用語で研究が進んでいた(D.S.ライチェン & L.H.サルガニク編著、立田慶裕監訳『キー・コンピテンシー』明石書店、2006年。J. Bellanca, & R. Brandt, eds., 21st Century Skills, Solution Tree Press, 2010. P. Griffin, et al., eds., Assessment and Teaching of 21st Century Skills, Springer, 2012. 松下佳代編著『<新しい能力>は教育を変えるか』ミネルヴァ書房、2010年)。本研究では、今後の学校において育成すべき資質・能力を、21世紀型コンピテンシーと総称することとした。

21世紀型コンピテンシーを育成する上で有効な方法として注目されているのが、パフォーマンス評価である。パフォーマンス評価とは知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法である。具体的にはレポートやプレゼンテーションなどのパフォーマンス課題や、作品を集積しつつ検討会を行うポートフォリオ評価法といった方法がある。また、評価基準として、パフォーマンスの成否をレベルに分けて捉えるルーブリックが用いられる。

パフォーマンス評価は、『学習指導要領解説 総合的な学習の時間』(平成20年)で推奨されているほか、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(平成22年3月24日)において、思考力・判断力・表現力を評価する上で有効な評価方法として紹介されている。さらに現在、文部科学省には、「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」が設置され、パフォーマンス評価を取り入れた場合の教育課程の基準の在り方などが議論されていた。

また、本研究のメンバーは、平成18年以来、毎年、京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM (教育研究開発フォーラム)が実施する研修において、パフォーマンス評価に関する研修を提供してきた(<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>)。また、E.FORUM 会員(2013年10月15日当時466名)のネットワークを生かしつつ、学校現場で、パフォーマンス評価の研究開発に取り組んできた。それにより、各教科・各学校段階において与えられる典型的なパフォーマンス課題や評価基準などを「E.FORUM スタンダード(第1次案)」として整理するに至っていた。

2. 研究の目的

「1. 研究開発当初の背景」を踏まえ、本研究では、各教科・教科横断を有機的に関連づけつつ21世紀型コンピテンシーを育成するようなカリキュラム、ならびに評価方法(パフォーマンス課題やポートフォリオ評価法などのパフォーマンス評価)と評価基準(ルーブリック)を開発することを目的とした。そのために、日本の学校の文化的背景や教育課程にあった21世紀型コンピテンシーの内実を明らかにするとともに、「E.FORUM スタンダード」を活用しつつ、効果的に21世紀型コンピテンシーを育成する学校カリキュラムを開発する、21世紀型コンピテンシーの評価方法を開発する、さらに21世紀型コンピテンシーの成長・発達を捉える具体的な評価基準を開発することをめざした。

3. 研究の方法

21世紀型コンピテンシーを育成するカリキュラムと評価方法・評価基準を開発するため、具体的には、次の3つに取り組む。(1)諸外国の研究と実践を調査するとともに、日本の文化や学校のニーズについて探究することにより、日本の学校で育成すべき21世紀型コンピテンシーの内実を明らかにし、教育目標とカリキュラムの在り方について理論的に検討する。(2)研究拠点校においてカリキュラムと評価方法・評価基準の共同研究開発に取り組む。(3)京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM で提供する研修において研究成果を発信するとともに、E.FORUM 会員のフィールドにおいてその応用と検証を求める。さらに、その実践データをデータベース「E.FORUM Online (EF0)」を活用して収集・分析することにより、より汎用性・妥当性の高いカリキュラムや評価方法・評価基準の開発を進める。

4. 研究成果

本研究によって、次の成果が生み出された。

(1) 日本と諸外国の教育目標とカリキュラム、評価に関する調査と成果の公表

国内外において刊行されている各種の文献調査を進め、その成果を著書等で公表した。

2014年度は、諸外国の理論や日本の理論的蓄積に関する文献調査を進めた。国内外で刊行されている「キー・コンピテンシー」や「21世紀型スキル」に関する文献を収集して分析し、21世紀型コンピテンシーを捉えるカテゴリーについての仮説的な理論枠組みを構築した。また、日本の歴史上に登場している類似の目標論(「教養」等)についても比較・検討を行った。

2015年度は、「キー・コンピテンシー」や「21世紀型スキル」などに関する理論と人間形成論との比較を行い、その成果を踏まえた論考を執筆した。また、関連する諸外国の動向と日本の動向と比較し、その成果について書籍『グローバル化時代の教育評価改革』などにおいて公表した。

2016年度は、「災害と厄災の記憶を伝える」、「根源的暴力をこえる」といった多角的な視点でコンピテンシーを検討し、成果を著書『変容する子どもの関係』（岩波書店）、『災害と厄災の記憶を伝える』（勤草書房）などで公表した。

2017年度は、教科で育成される学力のみならず、子どもの生命性、「集団」での経験、道徳性など、様々な角度から教育目標を捉え、それに対応するカリキュラムのあり方について、検討を進めた。また、その成果について、論文「子どもという多様体のための覚書」「子どもの生命性を捉える保育思想とはどのようなものか」「子どもはどのような『集団』を経験してきたのか」「『逆引き設計』でカリキュラムの改善を！」「教育課程編成の工夫」「教科横断的な視点からの資質・能力の育成」や、著書『臨床教育学』『道徳教育』などの形で公表した。

2018年度は、21世紀に必要なコンピテンシー（問題解決能力、創造する力、コミュニケーション力、協働する力など）について原理的・哲学的に検討し、著書『歓待と戦争の教育学

国民教育と世界市民の形成』、『教育的関係の解釈学』や、論文「人間／非人間の境界に立つ思想」「教育哲学は「災害と厄災の記憶」にいかに向き合うのか」、「熟議デモクラシーと教育目標・評価論の課題」などにまとめた。

(2) 研究協力校における研究開発の進展、高大接続・入試改革に関する検討

研究協力校と共同研究開発を進めた。

2014年度は、京都市立堀川高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、京都府立山城高等学校などにおいて、21世紀型コンピテンシー育成のためのカリキュラムと評価の共同研究開発、特にパフォーマンス評価の活用に関する共同研究に取り組んだ。

2015年度は、特に、兵庫県立尼崎小田高等学校などによる「高校生フォーラム」において、マネジメント力とコミュニケーション力、探究力の3つの観点から構成されるルーブリックを開発できたこと、京都府立園部高等学校において教科と総合学習を往還しつつ「資質・能力」の育成を図るカリキュラム改善を推進できたこと、京都市立堀川高等学校において探究力育成のための指導方法の開発について共同研究を実施できたことなどが成果として生み出された。また、「高校生と大学生の探究成果ポスター発表会」のポスターをもとに、高校生の探究力について分析した。

21世紀型コンピテンシーを育成するという視点から、2016年度以降も、奈良女子大学附属小学校、熊本大学附属中学校、兵庫県立尼崎小田高等学校など、複数の学校と、カリキュラムと評価の改善に関する共同研究に取り組んだ。

また、2016年度には、コンピテンシーを育成するために高大接続を促進するという観点から、京都大学教育学部の特色入試に関する検討も行った。パフォーマンス評価、ポートフォリオなど、多面的・多角的な評価を取り入れた「京都大学教育学部の特色入試」に関して、インタビュー記事や研究論文において検討したほか、大学入試センター・入学者選抜研究に関する調査室「大学入試センター・シンポジウム2016： 高大接続における学力評価の最新動向」、ならびに名古屋大学高等教育研究センター第81回客員教授セミナーでも発表した。

(3) E.FORUMにおける研修の提供と研究開発の推進、成果の発表など

E.FORUMにおいて、本研究プロジェクトの成果を発信するために、毎年、「全国スクールリーダー育成研修」を提供した。その中でワークショップなどにより、共同研究開発を推進した。

2014年度は、「E.FORUMスタンダード（第1次案）」について検討作業を進めた。また、宇都宮大学教育学部附属小学校・熊本大学教育学部附属中学校・あじさい看護福祉専門学校の事例を踏まえて、パフォーマンス評価を活用しつつ21世紀型コンピテンシーを育成するカリキュラムのあり方について検討した。

2015年度は、「E.FORUMスタンダード（第1次案）」について、次の学習指導要領改訂で重視されている「資質・能力」の育成と関連づけつつ改訂するための検討を進めた。「全国スクールリーダー育成研修」において、シンポジウム＆ワークショップ「『E.FORUMスタンダード』を再検討する」などを実施した。また、これまでの成果を、全国大学国語教育学会などで発表した。

2016年度も「E.FORUM全国スクールリーダー育成研修」において、研究成果を活かした研修を提供した。特に「E.FORUMスタンダード」の改訂作業に向けて、シンポジウム＆ワークショップを開催するとともに、パフォーマンス評価の実践に取り組んでいるE.FORUM会員に対し、『スタンダード作り』基礎資料集』（第2集）への寄稿を呼び掛けた。

2017年度は、「グローバル化時代の市民形成」と題したシンポジウムを開催した。さらに、研修内容を活かして学校現場で実践されている先生方に実践事例をご提供いただき、『スタンダード作り』基礎資料集』（第2集）を作成した。この資料集には、小学校から高校まで、専門教科をも含んだ各教科、ならびに「総合的な学習の時間」の実践について、計69事例をご寄稿いただいた。

2018年度は、「全国スクールリーダー育成研修」において、授業づくりやカリキュラム・マネジメントなどに関する研修を提供した。また、「資質・能力」の育成と教科の本質的な「見方・考え方」との関係について理論的に整理するとともに、京都大学大学院教育学研究科E.FORUMのネットワークにおいて蓄積されてきた様々な教科の実践事例を集約して、著書『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価「見方・考え方」をどう育てるか』にまとめた。この著

書は、小・中学校のすべての教科について、2017年版学習指導要領の変更点を解説するとともに、「本質的な問い」と「永続的理解」、パフォーマンス課題の実践例などを整理しており、本プロジェクトの5年間の成果の集大成とも位置づけられるものである。さらに、前年度までの本研究の成果も踏まえ、協同出版刊行の教職教養講座として、『教育相談と学校臨床』、『教育制度』の巻も刊行した。

2018年度には、本研究の成果を蓄積するとともに、実践現場に発信し続けるために、データベース「E.FORUM Online(EF0)」のシステムを更新した。2019年3月までにシステム更新については完了したものの、E.FORUM Onlineを通じた研究成果の発信や、システム更新も含めたプロジェクトの成果をまとめた報告書の作成については、2019年度に延長せざるを得ない状況となった。

2019年度は、成果報告書を作成・印刷するとともに、本研究プロジェクトの成果について、各種の論考や研修の機会に発信した。たとえば、京都大学大学院教育学研究科の教育実践コラボレーション・センターの成果発表会において、研究成果の一端を報告し、京都府教育委員会の方から、実践現場に役立つ知見だとのコメントをいただいた。また、2020年3月28日には、同センターE.FORUM主催による「教科におけるパフォーマンス課題の実践」に関する交流会を行った。本研究プロジェクトの成果を活かした実践に取り組まれている先生方同士で成果を交流していただくことによって、より自信をもって実践できるようになった様子が見られた。参加者からは、「E.FORUMを通じて、学び合い、励まし合う仲間をつくることができ、心強かった。来年度以降も是非参加したい」という感想を頂いた。同日午後には、講演会「先生が生まれ教育が始まる」(講師 矢野智司)を開催した。講演では、「贈与」という視点から「教えること」「伝えること」を捉え直した。参加者からは改めて教師の役割や営みについて考えさせられという感想が多く寄せられた。なお、2020年6月6日現在、E.FORUMの会員は、1100名余りとなっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計67件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 鋒山泰弘	4. 巻 第8号
2. 論文標題 新しい学習指導要領で目標と評価はどこまで変わったのか 社会科を例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 今日からはじめる楽しい授業づくり（全国到達度評価研究会）	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 vol.12
2. 論文標題 新学習指導要領下での学習評価改革のあり方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2019年4・5月号
2. 論文標題 変わる高校教育 高校における資質・能力の育成と学習評価 Part 1 概説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Guideline（河合塾 / 全国進学情報センター）	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://www.keinet.ne.jp/magazine/guideline/backnumber/19/0405/kawaru.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2019年6月号（通巻709号）
2. 論文標題 小学校における学習評価はどう変わるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第65巻9月号(通巻777号)
2. 論文標題 パフォーマンス評価の提唱と拡大	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 Vol.68No.1
2. 論文標題 「逆向き設計」論に基づく指導計画で、パフォーマンス課題を活用する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 Vol.132(2019年夏号)
2. 論文標題 パフォーマンス評価とは何か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理想(理想教育財団)	6. 最初と最後の頁 7-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) http://www.riso-ef.or.jp/kikan_riso132/?cNo=8866&param=MV8wXzc=&pNo=8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 2019年秋号
2. 論文標題 評価の考え方とその方法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ONE WORLD 小学校英語応援マガジンSmiles(教育出版)	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/tsushin/files/19as_08eigo.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田附紘平・松波美里・木村大樹・鈴木優佳・橋本真友里・柴田彩花・松井祥可・桑原知子(桑原知子)	4. 巻 37(1)
2. 論文標題 LINEの既読をめぐる葛藤場面における青年の心理の特徴 年齢と性別の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理臨床学研究	6. 最初と最後の頁 16-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 117号
2. 論文標題 人間/非人間の境界線に立つ思想 子どもを問い未来とつながる教育学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野文生・山名淳・矢野智司 他(矢野智司)	4. 巻 117号
2. 論文標題 教育哲学は 災害と厄災の記憶 にいかに向き合うのか 「災害と厄災の記憶を伝える」が提起しえたこと/しえなかったこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鋒山泰弘	4. 巻 第28号
2. 論文標題 熟議デモクラシーと教育目標・評価論の課題 討論型世論調査から考える政治教育の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育目標・評価学会紀要	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 No.776
2. 論文標題 生徒の資質・能力の育成を目指した学習評価 資質・能力の三つの柱と観点別評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中学校(全日本中学校長会)	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 11月号
2. 論文標題 高校の学習評価をめぐる議論のポイント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 vol.8
2. 論文標題 新教育課程を生かす評価のあり方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 37号
2. 論文標題 新学習指導要領で評価はどう変わるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部憲児	4. 巻 第3号
2. 論文標題 フランスにおける教職への人材誘導策 EAP(教員志願生/教員見習生)制度の成果と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域連携教育研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/JERRA_3_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 第5号
2. 論文標題 子どもという多様体のための覚書	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 子ども学(梅学園大学子ども学研究所「子ども学」編集委員会)	6. 最初と最後の頁 104-126
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 第152号
2. 論文標題 子どもの生命性を捉える保育思想とはどのようなものか フレーベルと倉橋惣三にみる子ども学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 発達(ミネルヴァ書房)	6. 最初と最後の頁 67-71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 第71巻17号
2. 論文標題 子どもはどのような「集団」を経験してきたのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 第106号
2. 論文標題 「逆向き設計」でカリキュラムの改善を！	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 商業資料	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/69/9992658126	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 7月号
2. 論文標題 教育課程編成の工夫 教科内容の精選と構造化の工夫	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 93-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 30号
2. 論文標題 教科横断的な視点からの資質・能力の育成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 Vol.418
2. 論文標題 今、求められる学力とは	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Career Guidance	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://shingakunet.com/ebook/cg/418/index.html#page=35	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 3月号
2. 論文標題 新しい評価の視点による授業づくり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八田幸恵	4. 巻 808号 (4月号) - 819号 (3月号)
2. 論文標題 連載 学校と教室における読みのカリキュラム・デザイン これからの時代に求められる国語科の目標と評価のあり方 (第1回~第12回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 110-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 65号
2. 論文標題 新教育と西田幾多郎 ベルクソン哲学を手がかりにして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教育新世界 (世界新教育学会)	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 757号
2. 論文標題 子どもの冒険	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教育と医学 (教育と医学の会編)	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司・西岡加名恵	4. 巻 7・8月号
2. 論文標題 インタビュー：教育学の研究成果を活かしたパフォーマンス評価を重視した特色入試を実施し、1年次の大学教育も変化	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Guideline (河合塾全国進学情報センター)	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.keinet.ne.jp/magazine/guideline/backnumber/16/0708/01toku.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 114号
2. 論文標題 書評「奥平康照『「山びこ学校」のゆくえ 戦後日本の教育思想を見直す』」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 56-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 10月号
2. 論文標題 パフォーマンス評価のすすめ パフォーマンス課題で実現するアクティブな指導と評価	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会科教育	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 楠見孝・南部広孝・西岡加名恵・山田剛史・斎藤有吾(西岡加名恵)	4. 巻 22号
2. 論文標題 <実践報告>パフォーマンス評価を活かした高大接続のための入試 京都大学教育学部における特色入試の取り組み	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育研究開発推進センター)	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://hdl.handle.net/2433/219551	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鋒山泰弘	4. 巻 2016年秋号
2. 論文標題 次期学習指導要領が目ざす社会科の「資質・能力」とその評価のあり方	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 小学校社会通信 まなびと	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/tsushin/files/16as_syakai.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 35号
2. 論文標題 【学術研究資料】 小学校外国語活動における子どもの言語経験を尊重した文字学習 - 文字学習リーフレットの作成を通じた目標・評価の検討	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要	6. 最初と最後の頁 107-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 2016年7月号
2. 論文標題 音と文字をつなげる自主制作ワークブックの紹介	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM (西岡加名恵 編集)	4. 巻 2015年8月
2. 論文標題 平成26年度成果報告書 全国スクールリーダー育成研修	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 平成26年度成果報告書 全国スクールリーダー育成研修	6. 最初と最後の頁 1-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 京都大学大学院教育学研究科教育学講座教育学分野（山名淳）	4. 巻 2016年3月
2. 論文標題 2015年度教育学基礎演習 報告集「人間形成」の意味世界（2）	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 2015年度教育学基礎演習 報告集「人間形成」の意味世界（2）	6. 最初と最後の頁 1-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2015年4月号
2. 論文標題 パフォーマンス課題を活かした授業づくり（特集 これから求められる資質・能力と授業づくり）	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2015年6月号
2. 論文標題 教育目標・内容、学習・指導方法、学習評価を「一体として捉える」とは何か？	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2015年12月号
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングの落とし穴 失敗事例と改善ポイント “はいまわる” 危険性をどう乗り越えるか？	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 社会科教育	6. 最初と最後の頁 84-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司・下司晶 共著	4. 巻 第111号
2. 論文標題 研究討議に関する総括的報告	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司・鳥光美緒子・山名淳・藤井佳世 共著	4. 巻 第111号
2. 論文標題 研究状況報告：人間形成とライフヒストリー・アプローチ 人間形成論の伝統からなにを学ぶか	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 158-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 第24号
2. 論文標題 自著紹介『幼児理解の現象学 メディアが開く子どもの生命世界』	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20552/hets.24.0_194	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 112
2. 論文標題 図書紹介「森田尚人・諏訪内敬司編『聞き書 村井実回顧録 正統』」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 285-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鋒山泰弘	4. 巻 第19号
2. 論文標題 「育成すべき資質・能力」をめぐる論議とカリキュラム改革の課題 2014年イングランドのナショナルカリキュラムの改訂をめぐる論点	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日英教育研究フォーラム	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.juef.org/contents/bulletins/vol.19/juef_2015_19_03_hokoyama.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひとみ・三輪和久・神崎奈奈・寺井仁・小島一晃・中池竜一・森田純哉	4. 巻 30
2. 論文標題 理論に基づく実験結果の解釈の支援: 認知科学の授業実践におけるモデル構築の効果に関する検討	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 人工知能学会論文誌	6. 最初と最後の頁 547-558
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1527/tjsai.30.547	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 2016年春号
2. 論文標題 Springboard指導例 音声指導から文字指導へ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ONE WORLD Info 英語教育通信	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/tsushin/files/16st_eigo.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八田幸恵	4. 巻 22号(2015年夏号)
2. 論文標題 高次のレベルの読む力を保障する単元・授業設計の探究	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八田幸恵	4. 巻 794号 (2016年2月号)
2. 論文標題 アクティブでコミュニケーションな読みの行為を育てる「真正の評価」と「パフォーマンス評価」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第728号 (2015年8月号)
2. 論文標題 学力向上とは	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2015年9月号
2. 論文標題 高校教育改革の方向性：「教育目標・内容」「学習・指導方法」「評価方法」の一体的な高校教育改革が進む	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Guideline	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.keinet.ne.jp/magazine/guideline/backnumber/15/09/04_kawaru1509.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2016年1月号
2. 論文標題 次期学習指導要領改訂のゆくえ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2015年12・1月号
2. 論文標題 今求められる学力と真正の学習	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 初等理科教育	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 第42巻第2号
2. 論文標題 生命に触れる遊びの体験は子どもに何をもたらすのか	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 幼稚園じほう	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 第20号
2. 論文標題 負債の教育と贈与の教育 「借りの哲学」を教育から考える	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 atプラス	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野智司	4. 巻 第7+8号
2. 論文標題 子どもと声の力 風と息と声と	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 子どもの文化	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山名淳	4. 巻 第108号
2. 論文標題 「輸入教育学」という喩えの限界	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 94-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 7月号
2. 論文標題 カリキュラムにおいて汎用的スキルをどう位置づけるか	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 33-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第17号
2. 論文標題 高次の学力の質的レベルを捉える枠組み N.L.ウェブの「知の深さ」を中心に	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 教育方法の探究	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/198588	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第60巻3号
2. 論文標題 グローバル化社会が求める学力	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 Vol.60-4 No712
2. 論文標題 ポスト近代社会が求める人間像と学力像 背景と論点	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 Vol.60-6 No714
2. 論文標題 21世紀をよりよく生きていくのに必要な資質・能力をとらえる枠組み 目標の 分類と構造化	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第40号
2. 論文標題 スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業 グローバル・リーダーに求められる資 質・能力	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jasso.go.jp/sp/ryugaku/related/kouryu/2014/_icsFiles/afie1dfile/2015/11/18/201407ishii%20terumasa.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第60巻8号
2. 論文標題 これから育成すべき資質・能力の指導と評価のあり方	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鋒山泰弘	4. 巻 第23号
2. 論文標題 2014年イングランドのナショナルカリキュラム改訂の検討 日本の次期学習指導要領改訂の課題と関連づけて	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 追手門学院大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八田幸恵	4. 巻 第76集
2. 論文標題 発展的な読みの能力を保障する教育目標・評価論の課題 1960年代のアメリカにおける「読みの理解のタキノミー」の検討を通して	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20555/kokugoka.76.0_47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 18
2. 論文標題 【教育改革ヘッドライン】小学校英語教科化の課題 これまでの実践の蓄積を整理して発展させる	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件(うち招待講演 12件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価
3. 学会等名 静岡大学附属島田中学校 教育講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学び」とパフォーマンス評価
3. 学会等名 学校体育研究同志会中間研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 外国語科における評価について 「学習評価についての在り方」中教審（報告）およびパフォーマンス評価の方向性
3. 学会等名 日本児童英語教育学会関西支部春季研究大会（大阪成蹊大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山名淳
2. 発表標題 「探究」体験とはどのようなものか 研究の現場感覚から伝えたいこと
3. 学会等名 「高大接続改革対応事業」に係る生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座（鳥取県立倉吉東高等学校）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井有香・柴田彩花・大場有希子・不破早央里・元木幸恵・大澤尚也・渡部智行・桑原知子（桑原知子）
2. 発表標題 中学校の「別室」における現状および教員と心理職の協働について
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 教育評価論の立場から
3. 学会等名 日本教育学会第77回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 教育目標・評価論の現代的課題
3. 学会等名 教育目標・評価学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 カリキュラム研究の立場から 「逆向き設計」論を踏まえた検討
3. 学会等名 日本カリキュラム学会 第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山名淳
2. 発表標題 「もじゃペー」から子どもの環境を考える ドイツの絵本が教えてくれる教育という力
3. 学会等名 こども発達学科開設記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山名淳
2. 発表標題 「もじゃべー」から子どもを考える
3. 学会等名 広島文化学園大学第8回子ども研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野智司
2. 発表標題 人間／非人間の境界線に立つ思想 「子ども」を問うとはどのようなことなのか
3. 学会等名 教育哲学会シンポジウム発表「人間をめぐる問いのゆくえ 霊長類学、人類学、教育哲学の接点を探る」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 矢野智司
2. 発表標題 過去と未来の間の「それから」の教育学へ
3. 学会等名 教育哲学会ラウンドテーブル発表「教育哲学は 災害と厄災の記憶 にいかに向き合うのか 『災害と厄災の記憶を伝える』が提起しえたこと／しえなかったこと」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 パフォーマンス評価の考え方と進め方 資質・能力をどう育成するか
3. 学会等名 第2回次世代教育研究推進機構シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 パフォーマンス評価の考え方と進め方
3. 学会等名 日本プロフィエンス研究学会 2017年度第3回例会（春合宿）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鋒山泰弘
2. 発表標題 熟議デモクラシーをめぐる議論の動向と教育目標・評価論の課題
3. 学会等名 教育目標・評価学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 新学習指導要領と国語教育の課題
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第132回大会シンポジウム「新学習指導要領，わたしはこう見る」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 資質・能力ベースのカリキュラム改革と教科学習の課題
3. 学会等名 日本家庭科教育学会 中国地区会 第37回 研究発表会・講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 矢野智司
2. 発表標題 「新教育と西田幾多郎」シンポジウム『新教育と哲学』
3. 学会等名 世界新教育学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 矢野智司
2. 発表標題 子どもの遊びに創造をもたらすメディアの力
3. 学会等名 日本美術教育学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 コンピテンシー・ベースの教育課程と教科教育の課題
3. 学会等名 日本学校音楽教育実践学会第21回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 個に応じた読みの指導につながる評価のあり方 Miscue Analysisの再評価
3. 学会等名 教育目標評価学会 第27回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 「逆向き設計」論に基づくパフォーマンス評価の進め方 言語活動の評価への応用可能性を探る
3. 学会等名 第128回 全国大学国語教育学会兵庫大会 シンポジウム「国語科授業づくりと言語活動のあり方 言語活動をどのように評価するか」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 矢野智司
2. 発表標題 対談「対称性という心の座標軸」
3. 学会等名 野生の科学研究所 公開研究会「「対称性」の扉を開く」第2回「純粹贈与と子どもの心」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 矢野智司
2. 発表標題 医療的ケアを必要とする子どもの「生」の発見 生きる意味の躍動と遊び
3. 学会等名 日本ホスピタル・プレイ協会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 八田幸恵
2. 発表標題 高次読解力の評価
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 第129回大会（ラウンドテーブル）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 学校におけるカリキュラム改善の進め方 「逆向き設計」論からの提案
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第25回大会、公開シンポジウム「カリキュラム研究の課題 子どもの『資質・能力』をどのように育成するのか」 (招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 資質・能力を育成するカリキュラムを構想する パフォーマンス評価をどう活用するか
3. 学会等名 愛知教育大学・静岡大学主催 平成26年度 第5回 教科開発学研究会(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 鋒山泰弘
2. 発表標題 イングランドの2014年ナショナルカリキュラム改訂をめぐる教科教育の目標・内容の規定と評価の課題
3. 学会等名 日英教育学会第23回大会 シンポジウム「日英のカリキュラム改革と学力観」(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 小学校英語教育の カリキュラムと評価をめぐる一考察 パフォーマンス評価に基づいた中高英語科スタンダード案から
3. 学会等名 日本児童英語教育学会2014年度関西支部春季研究大会
4. 発表年 2014年

〔図書〕 計53件

1. 著者名 市川伸一編集（石井英真）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 220(34-45,52-55)
3. 書名 速解 新指導要録と「資質・能力」を育む評価	

1. 著者名 教育開発研究所編（石井英真）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 186(28-31)
3. 書名 小学校・中学校 新指導要録 全文・解説と通知表の作成	

1. 著者名 西岡加名恵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科E.FORUM	5. 総ページ数 181
3. 書名 平成30年度成果報告書 全国スクールリーダー育成研修	

1. 著者名 杉本均・南部広孝（服部憲児）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 312 (174-182)
3. 書名 比較教育学原論	

1. 著者名 アラン・グッゲンピュール著、桑原知子監修、アランプロジェクト訳（桑原知子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 160
3. 書名 グループワーク<ミソドラマ>で子どもの心の声を聴く	

1. 著者名 森田尚人・松浦良充編（矢野智司）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 344 (117-147)
3. 書名 いま、教育と教育学を問い直す 教育哲学は何を究明し、何を展望するか	

1. 著者名 矢野智司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 424
3. 書名 歓待と戦争の教育学 国民教育と世界市民の形成	

1. 著者名 西岡加名恵・石井英真編（西岡加名恵、八田幸恵、鋒山泰弘、石井英真、赤沢真世）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 152
3. 書名 教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 「見方・考え方」をどう育てるか	

1. 著者名 篠原清昭編（石井英真）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ジダイ社	5. 総ページ数 231 (129-142)
3. 書名 教育の社会・制度と経営	

1. 著者名 篠原正典・荒木寿友編（石井英真）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244(212-230)
3. 書名 教育の方法と技術	

1. 著者名 高見茂・杉本均・南部広孝編（服部憲児）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 278 (233-243)
3. 書名 教育制度（教職教養講座 第13巻）	

1. 著者名 坂越正樹監修、山名淳・丸山恭司編（山名淳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 288(i-vii,61-78)
3. 書名 教育的関係の解釈学	

1. 著者名 桑原知子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 207
3. 書名 教育相談と学校臨床 (教職教養講座 第11巻)	

1. 著者名 西岡加名恵編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北斗プリント	5. 総ページ数 294
3. 書名 『「スタンダード作り」基礎資料集 (第2集)』	

1. 著者名 野田研一・山本洋平・森田系太郎編 (矢野智司)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 341 (55-71)
3. 書名 環境人文学 他者としての自然	

1. 著者名 教育思想史学会編 (矢野智司)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 869
3. 書名 増補改訂版 教育思想事典	

1. 著者名 矢野智司・西平直編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 238 (1-7, 13-35)
3. 書名 臨床教育学 (教職教養講座第3巻)	

1. 著者名 高見茂・田中耕治・矢野智司編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 280 (9-27)
3. 書名 教職教育論 (教職教養講座第1巻)	

1. 著者名 南新秀一、鋒山泰弘、吉岡真佐樹編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 280 (41-61)
3. 書名 現代教育の基礎理論	

1. 著者名 西岡加名恵編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 206
3. 書名 平成28年度成果報告書 兼 平成29年度研修用資料 全国スクールリーダー育成研修	

1. 著者名 日本教育方法学会編（石井英真）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 図書文化	5. 総ページ数 167（35-48）
3. 書名 学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討	

1. 著者名 金森強・本田敏幸・泉恵美子編（赤沢真世）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 212
3. 書名 主体的な学びをめざす小学校英語教育 教科化からの新しい展開	

1. 著者名 田中耕治編（八田幸恵）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 230（74-75, 192-193）
3. 書名 よくわかる教育課程 第2版	

1. 著者名 細尾萌子・田中耕治編（八田幸恵）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216（124-138）
3. 書名 教育課程・教育評価（新しい教職教育講座 教職教育編6）	

1. 著者名 田中耕治編（山名淳）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 210（20-32）
3. 書名 道徳教育（教職教養講座 第6巻）	

1. 著者名 大澤克美・松尾直博・東條憲二編（山名淳）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 264(153-169, 213-221, 232-234)
3. 書名 実践から考える金融教育の現在と未来	

1. 著者名 佐藤学・秋田喜代美・志水宏吉・小玉重夫・北村友人編（矢野智司）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288（187-216）
3. 書名 『変容する子どもの関係』（岩波講座 教育 変革への展望）第3巻	

1. 著者名 鴻池朋子（矢野智司）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 羽鳥書店	5. 総ページ数 384（27-42, 75-104, 107-160）
3. 書名 どうぶつのかたば 根源的暴力をこえて	

1. 著者名 山名淳・矢野智司編（矢野智司）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 331 (231-257, 304-326)
3. 書名 災害と厄災の記憶を伝える 教育学は何ができるのか	

1. 著者名 野田研一編（矢野智司）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 460 (133-153)
3. 書名 交感 自然・環境に呼応する心	

1. 著者名 西岡加名恵監修	4. 発行年 2017年
2. 出版社 PHP研究所	5. 総ページ数 47
3. 書名 アクティブ・ラーニング 調べ学習編 テーマの決め方から情報のまとめ方まで	

1. 著者名 西岡加名恵監修	4. 発行年 2017年
2. 出版社 PHP研究所	5. 総ページ数 47
3. 書名 アクティブ・ラーニング 学習発表編 新聞づくりからディベート、ワークショップまで	

1. 著者名 西岡加名恵編著（西岡加名恵、鋒山泰弘、石井英真、赤沢真世）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 144
3. 書名 「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 アクティブ・ラーニングをどう充実させるか	

1. 著者名 西岡加名恵	4. 発行年 2016年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 296 (105-134)
3. 書名 平成27年度成果報告書 全国スクールリーダー育成研修	

1. 著者名 石井英真編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 189 (10-19)
3. 書名 小学校発 アクティブ・ラーニングを超える授業	

1. 著者名 「読み」の授業研究会（石井英真）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 192 (168-175)
3. 書名 国語授業の改革16	

1. 著者名 矢野智司 (鎌田東二 編)	4. 発行年 2015年
2. 出版社 ビイグ・ネット・プレス	5. 総ページ数 261 (152-174)
3. 書名 スピリチュアリティと教育 (愛と自由の道徳教育 スピリチュアルな道徳教育のための簡単なスケッチ)	

1. 著者名 西岡加名恵 (田中耕治 編著)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 292 (232-243)
3. 書名 グローバル化時代の教育評価改革 日本・アジア・欧米を結ぶ (アメリカにおけるカリキュラム評価論の諸潮流)	

1. 著者名 赤沢真世 (田中耕治 編著)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 292 (156-159)
3. 書名 グローバル時代の教育評価改革 日本・アジア・欧米を結ぶ (「目標に準拠した評価」の登場と課題、新しい評価法をめぐる議論の到達点と課題)	

1. 著者名 八田幸恵 (田中耕治 編著)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 292 (256-265)
3. 書名 グローバル化時代の教育評価改革 日本・アジア・欧米を結ぶ (アメリカにおける教師評価)	

1. 著者名 石井英真 (田中耕治編著)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 292 (12-15, 76-81)
3. 書名 グローバル時代の教育評価改革 日本・アジア・欧米を結ぶ (評価の時代の始まり、学力テスト政策の課題と展望)	

1. 著者名 矢野智司	4. 発行年 2014年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 310
3. 書名 幼児理解の現象学 メディアが開く子どもの生命世界	

1. 著者名 矢野智司	4. 発行年 2014年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 大人が子どもにおくりとどける40の物語 自己形成のためのレッスン	

1. 著者名 小笠原道雄・田中每実・森田尚人・矢野智司	4. 発行年 2014年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 408 (129-212)
3. 書名 日本教育学の系譜 吉田熊次・篠原助市・長田新・森昭	

1. 著者名 矢野智司 編	4. 発行年 2014年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 198 (3-33, 100-129)
3. 書名 マナーと作法の人間学	

1. 著者名 矢野智司	4. 発行年 2014年
2. 出版社 学術出版会	5. 総ページ数 3390 (3-13)
3. 書名 木村素衛著作集 第6巻	

1. 著者名 林泰成・山名淳・下司晶・古屋恵太 編	4. 発行年 2014年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 332 (80-99)
3. 書名 教員養成を哲学する 教育哲学に何ができるか	

1. 著者名 ヴィガー, L.・山名淳・藤井佳世 編	4. 発行年 2014年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 229
3. 書名 人間形成と承認 教育哲学の新たな展開	

1. 著者名 宮寺晃夫 編 (山名淳)	4. 発行年 2015年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 224 (78 - 90)
3. 書名 受難の子ども	

1. 著者名 日本教育方法学会 編 (西岡加名恵)	4. 発行年 2014年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 444 (386-393)
3. 書名 教育方法学研究ハンドブック	

1. 著者名 日本教育方法学会 編 (石井英真)	4. 発行年 2014年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 444 (178-181)
3. 書名 教育方法学研究ハンドブック	

1. 著者名 石井英真	4. 発行年 2015年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 78
3. 書名 今求められる学力と学びとは コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影	

1. 著者名 八田幸恵	4. 発行年 2015年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 139
3. 書名 教室における読みのカリキュラム設計	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>京都大学大学院教育学研究科E.FORUM http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/</p> <p>日本教育学会近畿地区研究集会「英語教育はどうなるのか」 (2019年3月9日、E.FOERUM後援) https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/241556</p> <p>日本教育学会近畿地区研究集会「大学入試のあり方を問う --国際比較を通して」 (2018年5月12日、E.FORUM後援)</p> <p>E.FORUM 2017 全国スクールリーダー育成研修 https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/184</p> <p>E.FORUM 2017 全国スクールリーダー育成研修 第13回実践交流会 https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/217</p> <p>E.FORUM 2016 全国スクールリーダー育成研修 https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/150</p> <p>E.FORUM 2016 全国スクールリーダー育成研修 第12回実践交流会 https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/176</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	八田 幸恵 (Hatta Sachie) (60513299)	大阪教育大学・教育学部・准教授 (14403)	
研究分担者	鋒山 泰弘 (HOKOYAMA Yasuhiro) (30209217)	追手門学院大学・心理学部・教授 (34415)	
研究分担者	石井 英真 (ishii terumasa) (10452327)	京都大学・教育学研究科・准教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西岡 加名恵 (Nishioka Kanae) (20322266)	京都大学・教育学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	赤沢 真世 (AKAZAWA Masayo) (60508430)	大阪成蹊大学・教育学部・准教授 (34437)	
研究分担者	中池 竜一 (Nakaïke Ryuichi) (00378499)	平安女学院大学・国際観光学部・准教授 (34202)	
研究分担者	山名 淳 (YAMANA Jun) (80240050)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授 (12601)	
研究分担者	服部 憲児 (HATTORI Kenji) (10274135)	京都大学・教育学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	桑原 知子 (KUWABARA Tomoko) (20205272)	京都大学・教育学研究科・教授 (14301)	